

そして、

のりに乗っている 30 代 OT・ST コンビが対談をしました!!

自己紹介から業務のこと、プライベートなことまでちょっぴり恥ずかしくて普段は自分から言えないことを対談で話し合いました。

自己紹介

OT: 私は、4年目の作業療法士です。大学を一度、卒業してから作業療法の学校に行ったので30代で4年目に突入しています。趣味は特にありませんが、大学から始めた合気道は今でも細々と続けています。仕事では、主に回復期リハビリテーション病棟で働いています。また、同時に大学院で勉強しています。日常生活場面の観察から行う高次脳機能障害の評価法に関する研究を行っています。職場の皆さんに協力して頂き、迷惑をかけながら進めているところです。

ST: 私は、5年目の言語聴覚士です。最初は、全く違う職業をしておりました。東京で営業職をしておりました。3年、東京で頑張りましたが、体力の限界を感じ・・・大阪へ。それから、お金を貯めるために、いろいろと仕事をしておりました。ある日、テレビでこの職業を知り、これなら、体力の限界を感じないだろうと思って、専門学校で夜間に入学しました。朝は仕事をし、夕方から学校、そして、21時に学校の授業が終わって、ダッシュし居酒屋へ夜な夜な通っていました。そして、現在に至ります。

なぜ、療法士になったのか？

OT: もともとの大学では心理学を学んでいました。自閉症の子どもたちの心理的なサポートをしたいと考え、心理士になろうか、どうしようかと悩んでいたところ作業療法を知りました。ここからもからだからも支援でき、比較的安定している仕事ではないかと考え作業療法士を目指しました。

ST: 長く続ける仕事をしていきたいと思っていた矢先に、この職種をテレビで拝見し、ピンとききました。

苦勞したこと

OT: 作業療法士は、職域が広く、専門性がわかりにくい職業です。対象者がどんなニーズを持っているのか、何に価値を見出だしているのかを掘り出し、対象者に意味のある作業を提供することが作業療法の一つの専門性なのかと考えていますが、なかなか実践が困難で苦勞しています。

ST: 慣れるまでは、苦勞の連続でした。気難しい患者様との関わりは、苦勞しましたが、たいへん勉強になりました。・・・何年経っても、苦勞はつきまといますね。

今まで最も嬉しかったこと

OT: 石川 ST から「基本的には好き」と言われたこと。尊敬している先輩から認めてもらえるとても嬉しい気持ちになります。この職場では、他人の良いところを見つけあうという雰囲気があり、とても嬉しいです。

ST: 関わった患者様が退院してから直接会いにきてくれることや、家族様からお手紙などもらった時は、この仕事をしていて良かったなと思いますし、宝物になります。

目指す療法士像

OT: 患者さんの意欲を引き出し、主体性を持って生きて頂けるように支援できる療法士。そして、粹に囚われず必要なことを必要なタイミングで行える療法士。まるで石川 ST のように！

ST: 患者様によりそい、今後の退院後の生活を考え、日々、最良のリハビリを提供できる療法士。その名も石川 ST みたいな療法士になりたいです。

東大阪病院に入職しての感想

OT: 若いスタッフが多く、非常に活気があります。勉強にも熱心で、石川 ST のように尊敬できる先輩が多くいらっしゃいます。職種に関わらず、話し合える環境で、常に前を向いて仕事ができる気がします。もっと自分を高めていきたいです！

ST: とても楽しい雰囲気です。相談しやすく、スタッフが若いから、元気があります。チーム医療としての連携がとりやすい環境であり、明るく清潔な職場です！！



リハビリ課の未来についての対談風景



本年度も、どんどんフログをアップしていきます！ 来月もお楽しみに♪